

高尾山山頂から発信！

のぶすま

「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。

vol.56 季刊
2019年夏号

高尾山 夏鳥 さえずりコレクション♪

春から夏にかけて、高尾山は鳥たちのさえずりの声で大変にぎやかになります。それは、彼らが繁殖シーズンの真っただ中であることを示しています。まずは高尾山でよく聞くことのできる夏鳥たちのさえずりをご紹介します♪



【さえずり】とは・・・

繁殖に関係する重要な声。主に小鳥類のオスが発する特徴のあるよい声で、比較的複雑なものも多く、なわばり宣言やメスにアピールするための声といわれています。

メスがさえずる種類もいるよ！

オオルリ(メス)→



Twitterでふりかえる 高尾山ニュース！

2018年の4月より、Twitter・Facebookをはじめました！
山頂の気温や天気、旬な自然情報などを毎日発信しています。
では、4月～6月の間にあがったツイートの中から、注目のニュースをご紹介します。

アナグマに遭遇 (2019/6/11)



アナグマには山頂付近でよく出会います。のんびり屋な彼らは、こちらの存在になかなか気づかず、かなり距離が詰まってからピクッと慌てて逃げていくことが多いです。そんなところがとっても愛らしいです。

解説員
くらむ
vol.18

皆さんは日ごろ、図鑑を開く機会はありませんか？新米解説員である私は毎日図鑑のお世話になっています。

早春、相次ぐハナエノメなどの開花情報問い合わせやスミレ各種の同定など、高尾山らしい植物に関する洗練をうけ勤務がスタートしました。私はどちらかというと動物に関心が偏っていたので、植物になじみがありませんでした。花の名前を教わりつつ図鑑にとらめこする毎日。だんだん頭が混乱してきました。そもそも花ってなんだ。植物ってなんだ。

その時とても勉強になったのが、幼いころ両親が買ってくれた子ども図鑑でした。植物の項目には、花や葉の役割、どのように増えるのかなどが易しくかつ詳しく書かれていました。専門用語がふりがな付きで目に優しく、楽しく読み進めることができました。こども図鑑をすこいなと見直したと同時に、こんな誰にでも分かりやすい解説を目指したいと思った出来事でした。

ビジターセンターには、解説員おすすめの図鑑がたくさんあります。高尾山で見られるものに限った図鑑や、鳥の羽根図鑑なんでもありません。野鳥やカエルの声が出る図鑑を見て驚かれる来館者に、得意気な顔をします。日頃使い込んでいるのでポロポロになっているものも多いですが、是非たくさんの方に活用していただきたいです。現在図書コーナーなどはありますが、窓口にてお声がけいただければご覧いただけます。何か気になるものがありましたらお気軽にお声がけください。

解説員 やまもと

季刊高尾ビジターセンターニュースレター「のぶすま」2019年夏号 vol.56

東京都高尾ビジターセンター自然解説員作成 2019年7月6日発行

所在地：〒193-0844 東京都八王子市高尾町 2176 電話：042-664-7872 FAX：042-662-9926

(公式ホームページでカラー版最新号を閲覧できます)

たかおさん

「イワツバメのチャームポイント」の巻



作：うめだ/絵：うめだ

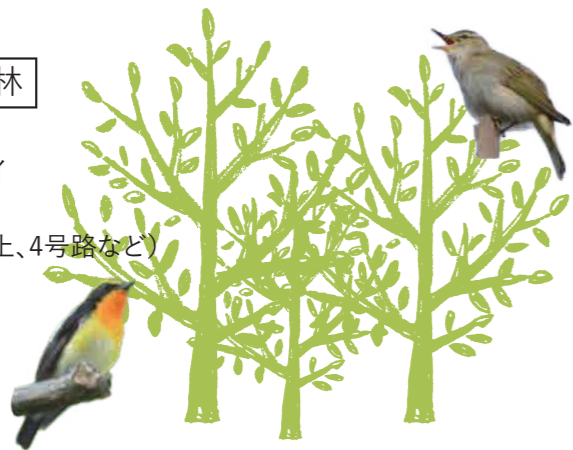
「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて準備しております。ご希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。

どこから聞こえる？～それぞれに違う好みの環境～

高尾山へやってきた夏鳥たちは、好みの環境でコケや落ち葉などの巣材を調達し、営巣しています。

落葉広葉樹林

- ・キビタキ
 - ・センダイムシクイ
 - ・コサメビタキ
- (1号路中腹より上、4号路など)



スギ、モミなどの針葉樹林

- ・クロツグミ
- (3、5号路など)



やぶ

(凹地上の地形をした暗い林内)

- ・ヤブサメ



山麓

- ・ホトトギス
- ・アオバズク



沢・谷・崖

- ・オオルリ
 - ・サンコウチョウ
 - ・アカショウビン
- (1、4、6号路など)



珍しい

レアなさえずり

もし彼らの声が聞こえたら、ぜひビジターセンターへご一報ください！

キョロロロ
キョロロロ...



アカショウビン

最新では、2019年5月末～6月
4号路でさえずり情報あり！

ゲツ ゲツ
ゲゲゲゲッ



ブッポウソウ

1980年代以降より激減
今や幻に...

ピリリリ
ピリリリ



サンショウクイ

今では高尾山を通過
するだけの旅鳥に

高尾山に勤務して初めての夏、あちこちに響き渡る夏鳥たちのさえずりにとても感動したことを覚えています。彼らの声を聞き分けられるようになった今では、その存在をより身近に感じられるようになりました。そしてその声を耳にする度、彼らの命を育むことのできる環境がここに残されていることを感じ、ほっとした気持ちになります。みなさんもぜひ、夏鳥たちのさえずりに耳を傾けてみてください。

〈解説員うい〉

参考資料：新八王子市史(自然編)、新八王子市史自然調査報告書 八王子市動植物目録(2016 八王子市)、高尾山野鳥観察史 75年の記録と思い出(清水徹男 著)、数え上げた浅川流域の野鳥III 八王子・日野カワセミ会30年間の観察記録(2016年12月八王子・日野カワセミ会)

ブッポウソウ、声と姿

ブッポウソウという、鳥らしからぬ名の由来は何でしょうか？

前回の『ブッポウソウ復活プロジェクト』と高尾山におけるブッポウソウの歴史の紹介に引き続き、今回は長い間解明されなかったブッポウソウの名前の謎に迫ります。

みなさん、ブッポウソウの名前の由来はご存じでしょうか？ブッポウソウと鳴くから？惜しい！80年程前までであれば一般的には正解だったでしょう。今回は、『ブッポウソウのなぞ』という本で知った、少々ややこしいブッポウソウの名前にまつわる歴史について紹介します。

時は千年程前に遡ります。かの有名なお坊さん、弘法大師(空海)がお堂に籠っていると、夜明けごろに鳥の不思議な鳴き声を聞きました。弘法大師は、お坊さんであるが故か、「仏・法・僧」と聞えたそう、大変感激されたそうです。以後、弘法僧鳥(ブッポウソウチヨウ)とありがたがられ、いつしかブッポウソウとだけ呼ばれるようになりました。しかし、どんな姿をしているかは不明でした。江戸時代になると、鳴き声の正体を確かめようと調べだす人が出てきました。夜間ブッポウソウの鳴き声が聞こえる山に日中入ると、大抵、緑色の派手な鳥がいたので、声に負けず姿も立派だと納得し、その派手な鳥にブッポウソウの名前が付きました。

時は過ぎ、昭和になって鳥の研究が進むにつれて、ブッポウソウの正体に疑問を持つ人が増えてきました。というのも、日中に緑色の鳥がいても夜にブッポウソウの声が聞こえない土地がいくつかあったからです。そればかりか日中は「ゲゲゲ」という濁った声でしか鳴かず、謎は深まるばかりでした。

昭和10年6月7、8日、日本放送協会名古屋放

送局は、愛知県の鳳来寺山でブッポウソウの鳴き声の実況中継を全国放送で行いました。すると、東京の浅草で、放送された鳴き声に反応して、ある飼いの鳥が鳴いたと報告がありました。また12日には、鳴き声を頼りに疑惑の鳥を撃ち落としたり人がいました。こうして、ついに長年の謎が明かされたのです。何とそれは、どちらも緑色の鳥ではなく、コノハズクというフクロウの仲間だったのです！

一度広まった思い込みは、なかなか解消されないものなのでしょう。最近でも、セミの寿命は一般的に知られている1週間：ではなく1カ月程生存すると、高校生によって証明されたというニュースがありました。驚かされたかと思えます。

さて、濁った声の緑色の鳥はそのままブッポウソウの名を持ち現在に至ります。後の調査によると、ブッポウソウは日中活動し、夜になると眠ってしまふことが分かりました。また、この鳥はカナブンやトンボなどの大きな昆虫を空中で狩ります。ブッポウソウが住むには、様々な大きな昆虫が飛び交う場所、またそれだけの昆虫を支える植生豊かな環境である必要があります。一時はゴミで溢れ、カラが増え、環境が悪化してしまったこともある高尾山に、再び「ゲゲゲ」という声が聞こえたら、我々は弘法大師とは違う感動を覚えるのではないのでしょうか。

〈解説員 こばやし〉

参考図書：小林清之介(1971)ブッポウソウのなぞ、ブッポウソウのなぞ、小峰書店、東京・11-94.

解説員のちおし vol.14

カマトイシノミ 足もとにひそむ古代生物



古いタイプの昆虫には翅(はね)がない

脚(あし)のなごり?

腹部には付属肢(ふぞくし)がある

イシノミの仲間は、昆虫の中でも古くからの体の特徴が変わっていません。イシノミが現れたのは、約4億年も昔と言われています。多くの昆虫が翅をもつのに対し、イシノミにはありません。飛ぶことはできませんが、腹部をたたきつけてジャンプをします。

観察適期…4月～11月
見られる場所…自然研究路どこでも
落ち葉の下や木の幹

〈解説員 ふくざわ〉